

経営比較分析表（平成30年度決算）

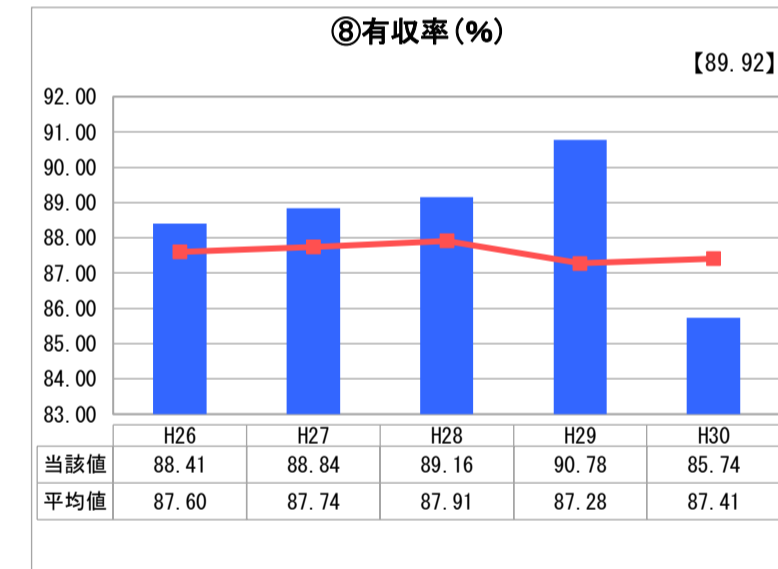
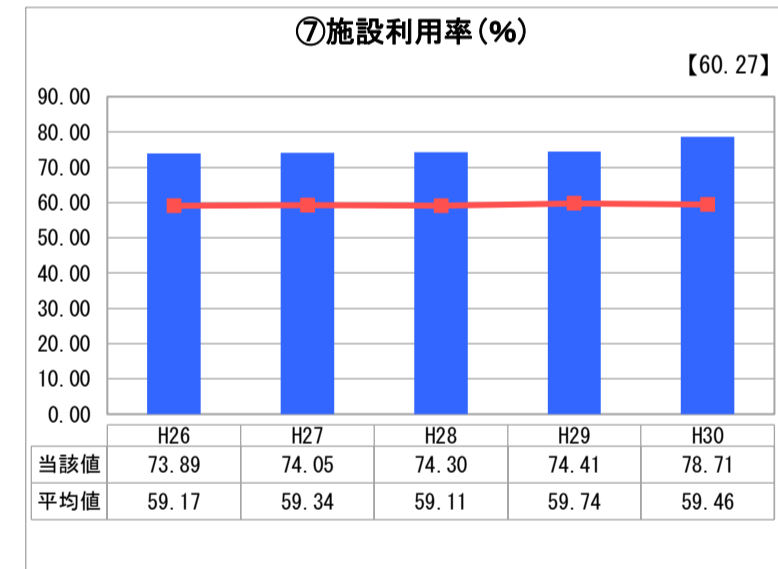
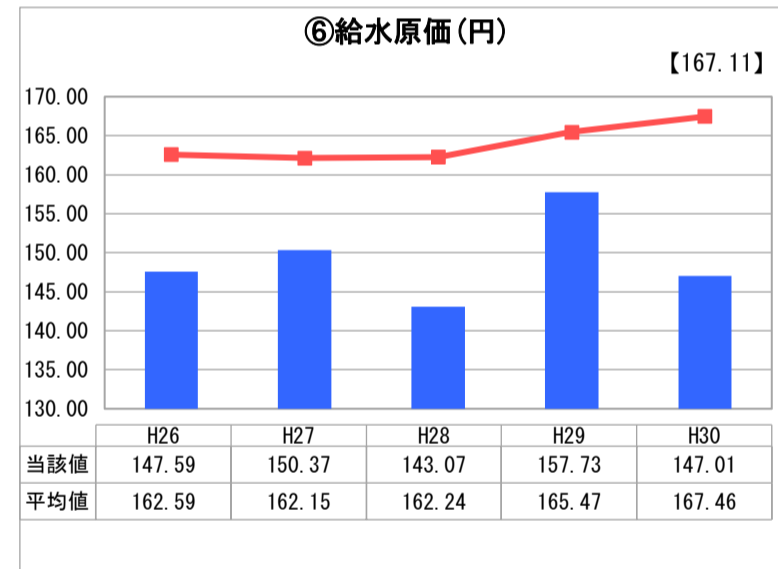
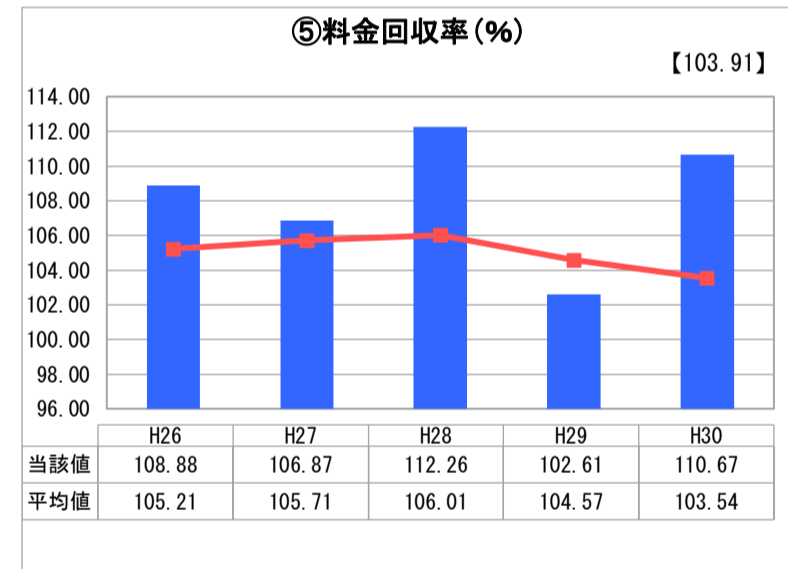
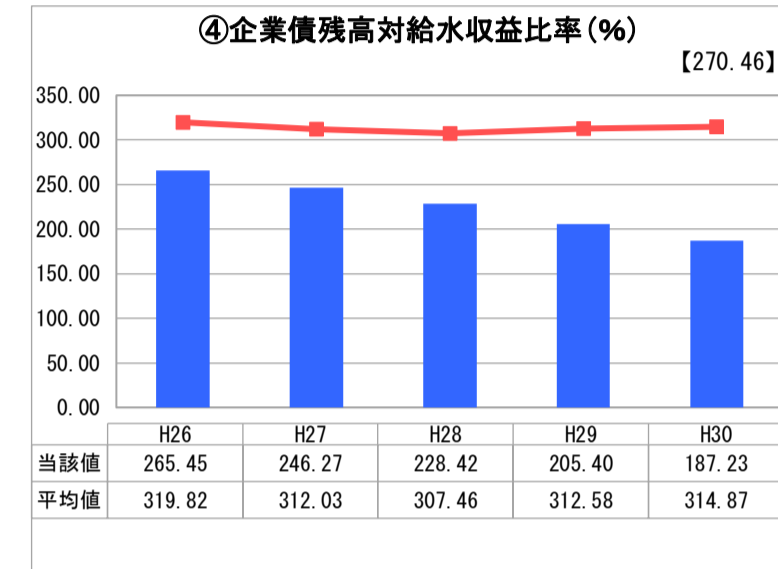
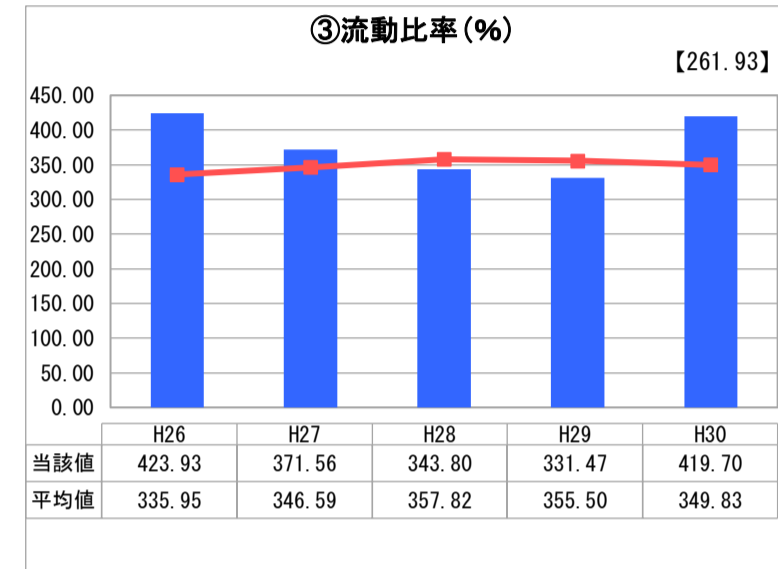
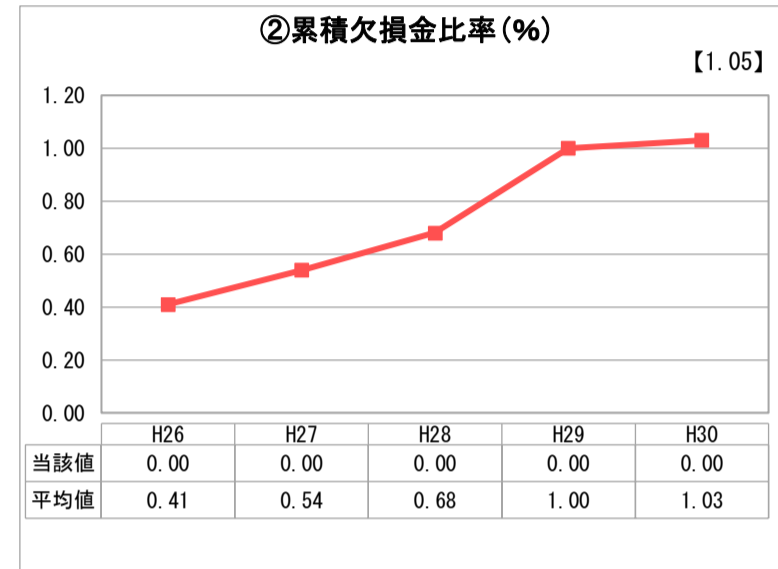
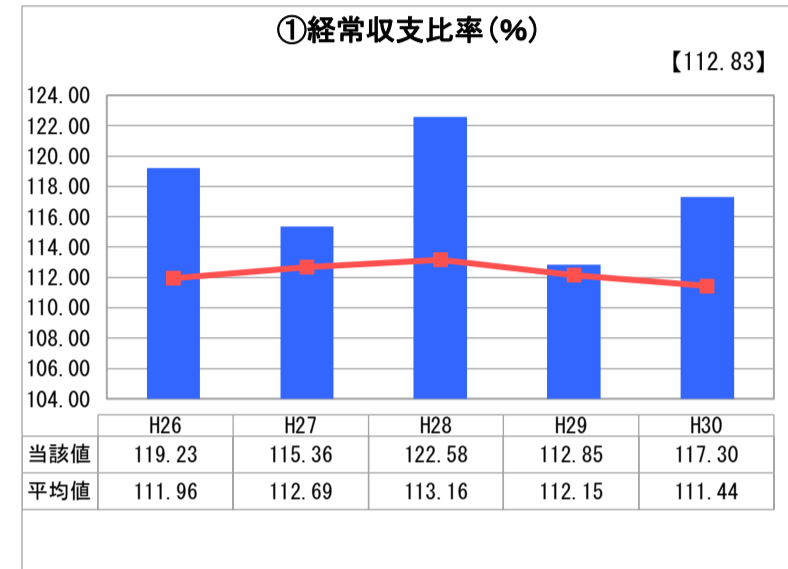
埼玉県 白岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.86	99.74	2,732	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,497	24.92	2,106.62
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
52,338	24.92	2,100.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

旧浄水場の解体工事が完了したことに伴い、費用が減少したため、前年度と比較すると「⑥給水原価」が減少し、「①経常収支比率」及び「⑤料金回収率」が増加した。

経営については5年連続で「①経常収支比率」が100%を超え、「②累積欠損金比率」が0%であり、「③流動比率」は100%を上回り、類似団体平均と同等の水準を維持している。「⑦施設利用率」も類似団体や全国平均よりも良い状態で推移している。しかしながら、管路や機械設備の更新により「④企業債残高対給水収益比率」が上昇することが考えられる。

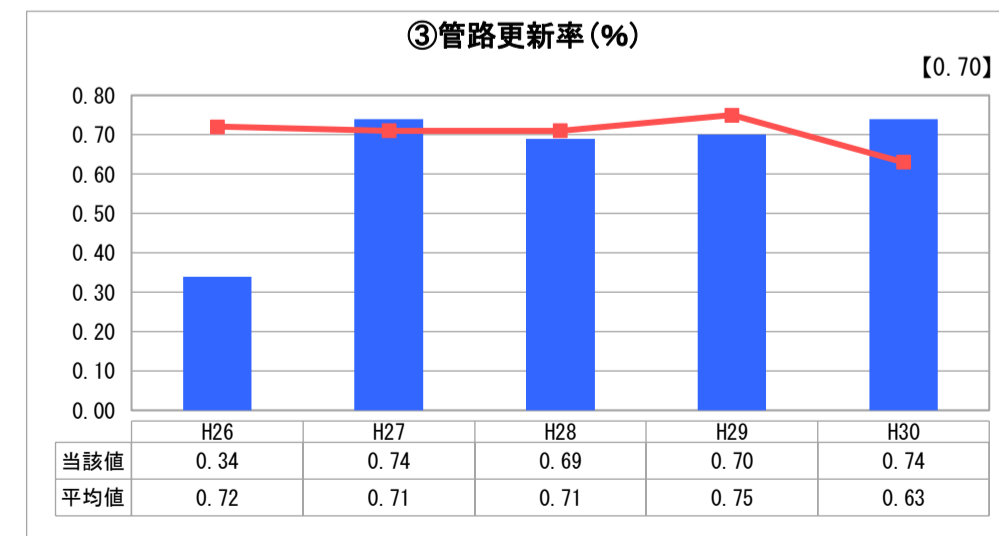
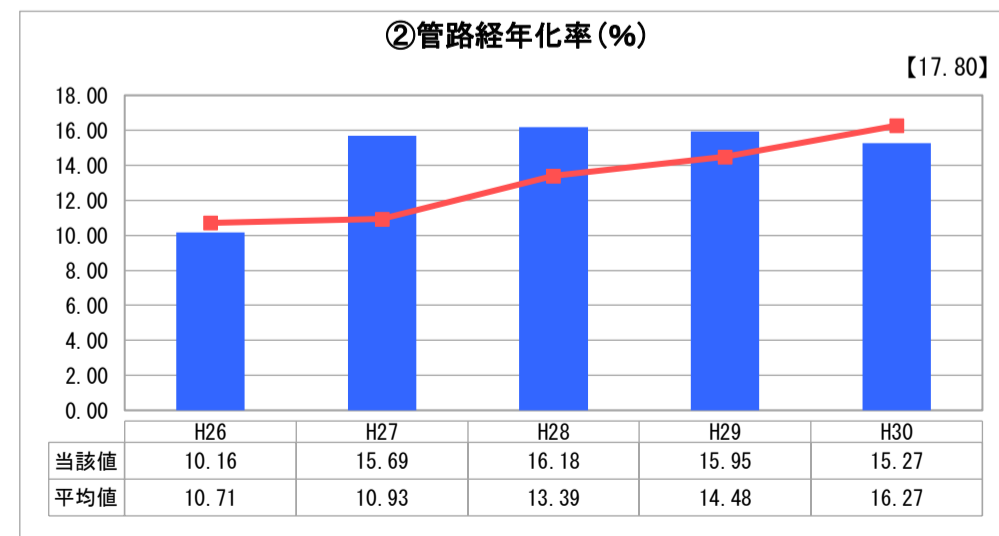
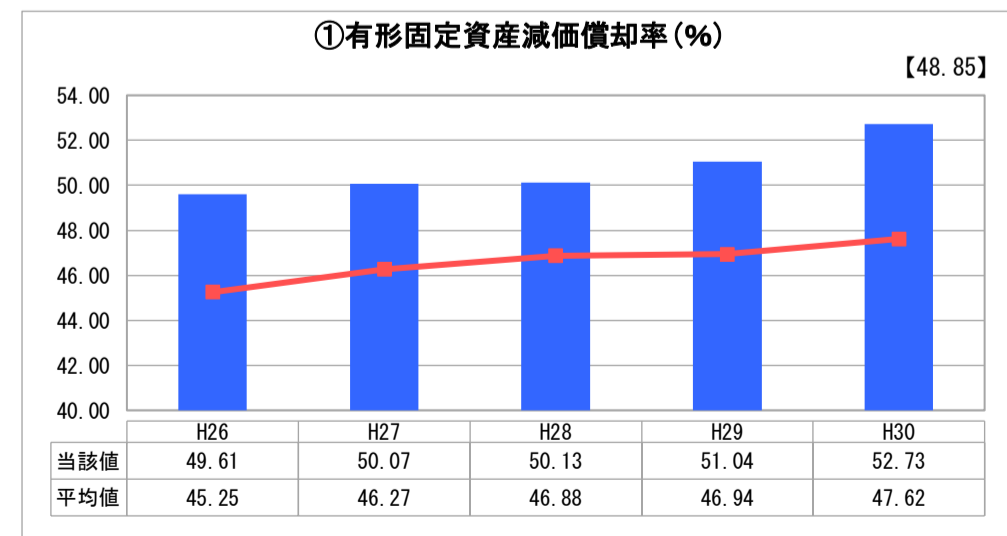
また、「⑧有収率」は洗管作業が増加したため、前年度に比べ低くなり、今後も低くなるのが予想される。将来見込まれる人口減少や節水家電の普及等による節水意識により、給水収益の増加は見込むことができない。

これらのことから、漏水の減少に努め有収率を向上させるとともに、今後は「⑦施設利用率」を100%に近づけるためのダウンサイジングや、料金の見直しを含む経営改善を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」が右肩上がりでも推移し、「②管路経年化率」が高い水準で留まっていることから、施設や管路の更新の必要性が高い。「③管路更新率」は前年度と同程度で推移していることから、当該年度に管路等を計画的に更新できたと言えるが、今後更新のペースを上げていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営については健全性を保っているものの、施設の老朽化は進むので、更新するための経費が増加する。給水収益増加は見込めないため、適切な施設更新とそれに対する財源確保をとりまとめた経営計画をもとに、健全な経営に努めていく必要がある。